



スモールステップ



7月号

「実践につなげる校内研究会」

副校長 藤上 実紀

20日(金)は短縮授業とし、午後から校内研究会を実施しました。本校では、一年を通して自立活動の研究を行っています。学習指導要領では、自立活動の目標を「学校の教育活動全体を通して、児童生徒が障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要とされる知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達の基盤を培うことによって、自立を目指す。」としています。自立活動は教育活動全般において実施され、個別指導計画にも個々の目標が設定されています。

研究会では、教員が学年ごとに分かれ、一人一人の子供の課題を黄色、得意なことや好きなことをピンクの付箋に書いて大きな紙に貼り、実態把握と情報整理を行いました。活発な話し合いがなされ、黄色の付箋以上にピンクの付箋が多く貼られていたことを大変嬉しく思いました。課題だけでなく子供の得意なことや好きなことから子供の全体像が捉えられ、指導のヒントが見えることがあります。今回の実態把握を基に指導内容を検討し、具体的な実践につなげていきます。

「食べる力」＝「生きる力」を育てよう

栄養士 八代 真佑

食育とは、様々な経験を通して「生きる力」を育むことです。一年間毎日3食食べるとすると、学校給食はそのうちの約5分の1で、5分の4は家庭での食事です。食育は特別に何かをするよりも、継続的な習慣付けが大切です。「これならできるかも」と思えることから実践してみませんか？ちょっとしたことの積み重ねが、お子さんの人生を変えるかもしれません。

ステップ1:食べ物に興味をもとう！「この魚は〇〇っていう名前だよ」「トマトが真っ赤できれいだね！」などその日の食卓にあるものを話題にしてみてください。昨日と同じネタでも問題なし！むしろ繰り返しが大事です。

ステップ2:どんな味がするかな？ 五感(視・聴・嗅・味・触)を使って食べることは、味覚の発達につながり、よく噛む動作も促されます。味わって食べた感想を身振り手振りや言葉で伝えることで、気持ちを表現する学びにもなり、表現力・語彙力の増加にもつながります。食事の時間は食べることに集中できる環境が望ましいです。

ステップ3:かっこよく食べよう！一緒に食べる人と楽しく過ごすために気を付けたい約束です。「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶、姿勢、食器の並べ方、食べる時の音、箸の使い方などありますが、まずは目標を一つ決めて取り組んでみましょう。

できたときは拍手！！たくさん褒めてあげてください♪



「地域にかかりつけ医院をもちましょう」

養護教諭 小西 千絵

お子様が成長され思春期に入ると、ホルモンバランスの影響のためか、心身ともに不安定になることがあります。それまでまったく医療管理が必要なかったお子様が突然発作を起こす、気分の浮き沈みが激しくなる、自傷・他害が始まる、眠れなくなるということがあります。

心配なことがあればすぐ受診できるようなかかりつけ病院があると安心ですが、「病院はどのように探せばよいですか？」という御相談を時々受けます。小・中学生なら小児科や児童精神科、思春期外来などで検索していただければよいと思います。

お子様が20歳になったときに申請できる障害年金の申請手続きにおいても、成長や治療経緯を共有している医師がいることは大変重要です。申請手続きの際、障害の程度や経過について医師が記入する診断書が必要となります。また障害年金は数年おきの更新制で、その時の障害の状態についての診断書提出が都度必要となります。ですので、ぜひ早めに将来を見越して通院しやすいかかりつけ病院を探し、定期的に受診して病院に慣れておくことをお勧めします。

